

ぐんはる

第3試合場

第4試合場

救護 JOC 全日本ジュニア柔道体重別

スポーツにおける初期外傷
どのように対応するか

2024

10

全日本ジュニア柔道体重別選手権

スポーツ救護 チームワークが鍵 競技者の安全 試合の進行も考慮



この大会は、日本柔道界の将来を担う20歳以下の選手育成を目的とし、ジュニア日本一を決めるもので、世界ジュニア柔道選手権大会の代表選考をするための重要な大会



救護活動

9月7・8両日、高崎アリーナで「全日本ジュニア柔道体重別選手権大会」が開催され、各地区予選を勝ち抜いた選手が出場し熱戦を繰り広げた。また、公益社団法人群馬県柔道整復師会から9名の会員が救護員補助として参加。試合中の安全面に配慮しながら、怪我をした選手への対応に従事した。

だ。日本代表選手の登竜門として、多くの名選手を輩出してきており、過去の優勝者は錚々たるメンバーとなっている。

求められる迅速な処置 搬送経路の確認も

スポーツにおける救護では選手の安全はもちろんのこと、スムーズな試合進行を妨げてはいけない。実際に重大事故が発生した際には、選手の安全を確保しながら素早く試合場から離脱させる必要がある。そのためには、搬送方法や経路の把握は欠かせない。初日は早めに会場入りし、スパインボードと呼ばれる搬送用器具の使用方法をそれに伴い搬送経路や必要とな

った際の動きなど入念にチェックした。

救護員の構成は医師4名、看護師1名、柔道整復師8名。看護師は医務室で、医師・柔道整復師は2チームに分かれ会場内で待機した。

大会中、救護対象となったのは32回。大半は顔面や腕等からの出血によるものであり、担当医師が迅速かつ適切に処置。大会の規程から、同じ部位から2度以上の出血があると反則負けとなるため、選手および治療を施す側も気を抜けない。

幸いにも選手の身に危険が及ぶような怪我や、緊急搬送を要するものは発生しなかったが、救護補助員として止血用備品の準備や出血で汚れた

畳の清掃など、選手の安全や試合のスムーズな進行を妨げないよう任務に当たっていた。

予期せぬ怪我 複数のレイヤーで対応

前述したが、今回のような大きな大会ではスムーズな試合進行も求められる。医師や看護師など多職種と協働しながら、どのように救護員としてチームワークを発揮できる



か、日頃から心構えを持っておく必要があると感じる。

また柔道整復師として、共通の記載用紙に救護の中で起きた出来事を記録として残し、振り返ることができるようにすることも大切ではないか。実際、大会期間中、ドクターたちは発生した事例をA4用紙へつぶさに記載していた。課題等をまとめ、報告会などを実施して情報を伝えるとともに、時を経て見直すことができれば良いと考える。

スポーツ救護の現場では思

わぬ怪我も多く、多様な課題に直面し選手自身へ100%の支援が届きにくい。医療ソースや人的資源も限られる中で、現場でできることは限定的だ。有効活用するには救護員の配置や研修などを通じた連携など、日頃から複数のレイヤーによる連携を深めていくことも重要ではないだろうか。今回の教訓を分析しフィードバックを重ね、組織としても救護員を安定的に供給できるシステムを構築していきたい。（報告 矢嶋義忠）

救護員講習会

原則は選手の安全 互いに信頼し合い 対応は迅速に

全日本ジュニア柔道体重別選手権大会の開催にあたり、8月25日に群馬県柔道整復師会多目的ホールで「救護講習会」を開催。講師に全柔連医科学委員会の特別委員で上牧温泉病院副院長整形外科医の岡田尚之先生を迎え、救護現場



での心構えと実際に多発する怪我などについて説明を受けた。

実技講習では負傷者を体位変換させる適切な方法「ログロール」を学ぶ。スパインボードと呼ばれる担架の使用方法も合わせて学習し搬送方法など実践に則して体験。岡田先生は「スポーツ現場では負傷者の迅速かつ的確な搬送が欠かせません」と指摘する。1番の原則は選手の安全を守ること。そのためには「現場にいる救護員が信頼し合い、協力して速やかに搬送対応してほしい」と訴えた。



群馬県柔道場連合会柔道大会

ここから始まる柔道人生 今ある力を信じて試合に挑め

9月1日、ALSOKぐんま武道館第一道場で「第70回群馬県柔道場連合会柔道大会」が開催された。



同連合会は、昭和28年に群馬県柔道連盟と県柔道整復師会の協力により発足。柔道の底辺を支える町道場の伝統を世代を越えて受け継ぎ、柔道の底辺を支え活動を続けている。

同連合会と県柔道整復師会は車の両輪の関係にあり、手を携えて柔道の振興を支え続けてきた。これまで多くの県柔道整復師会員が同連合会会長を務め、現会長の田島隆行会員（前橋）は祖父・父も同連合会の会長を務めた。

当会は、第1回大会から県柔道連盟と共に後援を続け、

現在は県柔道整復師協同組合も後援に加わっている。

現在の大会は、本会会員が指導者を務めるスポーツ少年団・柔道愛好会・柔道教室などの団体も含め、幼年から一般成年有段者まで、幅広い年齢の選手が一つの大会に集い、試合を行うことも特徴で、男女合わせて336人が参加した。

幼年の選手達は、初めて経験する大きな会場。緊張の中で、父兄の声援を受け、夢中で試合に臨む。幼い選手達の柔道人生が、ここから始まる。

10月の当番施術所

前橋	伊勢崎佐波	桐生みどり	太田	高崎	富岡甘楽	
6日(日) 深澤接骨院 027-221-6888	なんの接骨院 0270-50-1117	新井接骨院 0277-44-7577 佐藤接骨院 0277-51-5858	なごみ接骨院 0276-55-4157	須藤忍接骨院 027-362-5614 丸山接骨院 027-323-0185	とみざわ鍼灸接骨院 027-373-7377	あおぞら整骨院 0274-63-5133
13日(日) ふじひら接骨院 027-289-5644	接骨院がく 蕪塚院 0270-50-7833	みのる接骨院 0277-55-1511 馬場接骨院 0277-73-7455	板橋接骨院 0276-48-6636	すがわら鍼灸整骨院 027-321-5110 くすの樹接骨院 027-363-0411	湯浅接骨院 027-346-5678	涌永接骨院 0274-62-1059
14日(月) 花みずき整骨院 027-252-8023	こばやし接骨院 0270-61-5300	中島整骨院・鍼灸院 0277-22-8555 すわ接骨院 0277-46-0901	木暮接骨院 0277-78-3455	おおるい接骨院 027-384-8607 高橋接骨院 027-363-1172	ひらい接骨院 080-1135-5074	秋山接骨院 0274-63-6139
20日(日) 真塩接骨院 027-223-1310	三里堂接骨院 0270-26-7001	奥澤接骨院 0277-76-2036 いけだ整骨院・鍼灸治療院 0277-43-5233	正木接骨院 0276-56-2397	桜井接骨院 027-344-1500 岡田鍼灸接骨院 027-370-2727	高木接骨院 027-387-2186	阿久津接骨院 0274-64-2701
27日(日) かえで整骨院 027-267-0802	おのづか接骨院 0270-23-1139	かしわせ接骨院 0277-43-6571 くぼづか接骨院 0277-77-2112	本町接骨院 0277-78-8300	高橋接骨院 027-326-5111 あらい接骨院 027-386-6002	にしざわ接骨院 027-386-8686	伊藤接骨院 0274-63-2354



左の2次元コードからもアクセスできます。

休日当番は変更となる場合があります。
詳しくは当会ウェブサイトにて、ご確認をお願い致します。



<http://www.sekkotuin.or.jp/kyujitu/index.html>

